

# 防ごう！家庭の子どもの事故、 高めよう！家庭の防災意識



☆今回の講座では「家庭で起こる幼い子どもの事故の防ぎ方や対処の仕方」、「家庭でできる防災対策」、そして「子育てやしつけ」について、講師ご自身の体験を交えてユーモアたっぷりにお話をしていただき、子育て世代の親はもちろん、孫育て世代の方、子育てが終わった方などにも大変勉強になる内容となりました。

## ◆ 講座の概要



### 【子育てについて】

#### 1 家訓をつくってみましょう！

親は子どもに「嘘をついてはいけません！」、「挨拶をしなさい！」などによく注意をしますが、それではなかなか子どもは言うことを聞きません。そのような時には、親子で相談しながら「家訓(家庭のルール・約束事)」を作ってみましょう。「家訓」は台所やリビング、トイレなどのよく見えるところに貼り、まずは親や周囲の大人が子どものお手本となって守っていきましょう。

#### 2 親が何でもしてやってはいけません。子どもにさせてみましょう！

子どもは「発育」(体が大きくなること)と「発達」(いろいろなことができるようになること)の両方によって「成長」していくものです。何でもすぐに親が手助けしていると子どもの発達をはばみ、ひいては健やかな「成長」に影響を与えることになりかねません。子どもが何でも親がしてくれると勘違いし、依存症に陥らないように、子どもになんでもさせてみましょう。

#### 3 「生活リズム」を身につけさせましょう！

人間は24時間という「地球時間」で一日を過ごしていますが、体に備わっている「体内時計」は25時間です。この1時間のズレは人の体に様々な悪影響を与えます。このズレを改善するためには、睡眠をしっかりととり、朝の光を浴びることが必要です。乳幼児期から「早寝・早起き」などの生活リズム(規則正しい生活)を親が責任をもってきちんと身につけさせましょう。

#### 4 教育の順番について。

教育の順番を間違えると子育てがうまくいかない場合があります。結婚したら、まず最初にご主人を教育してから子どもの教育をするのが理想的です。ご主人の協力が得られやすくなり、子育てがスムーズに行く場合が多いからです。

# 【家庭内での子どもの事故防止について】

## ◆ 子どもが危険にあわないための対策

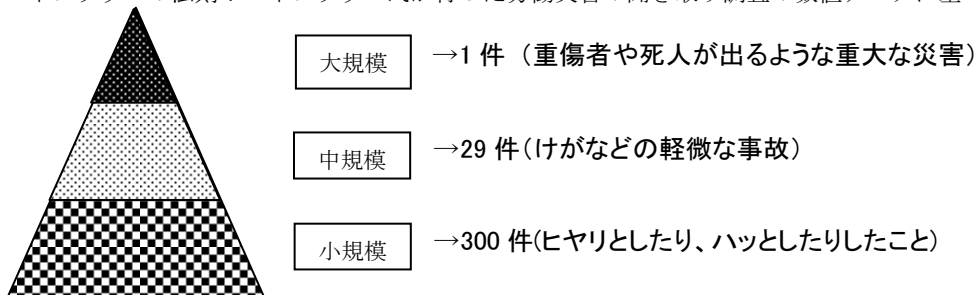
- ・まず、大人が規範意識を持ち、子どもに手本をみせることが大事です。そして日常生活の中で親が子どもに必要なことをきちんと教え、子ども自身にやらせてみて、できたら誉めていきましょう。これが、しつけです。
- ・大人(親)が危険物を「触ってはダメ! 使ってはダメ! 」と叱るだけでは、ますます子どもの興味をかりたてることになり、危険です。「安全」とは決まったルールにのっとり行動することです。まず、危険物(はさみ、ライター、カッター、包丁など)の「使い方」をきちんと教え、実際に使わせてみるのが大切です。その際に刃物の渡し方を教えたり、誤って使うとどうなるかも教えたりしておくといでしょう。
- ・大人(親)が危険物を出しっぱなしにしないことが大切です。特に薬などは小まめに片づけておきましょう。子どもが口に入れたり誤飲したりするのは、大人の責任です。
- ・事故にあわないための年齢別対処法
  - ① 幼児期…つなぐ(子どもの手を離さない。) ※子どもは手を握られると安心します。
  - ② 思春期…見る(子どもの目を離さない。)
  - ③ 青年期…声かけ(子どもの心を離さない。)
- ・**危機(注1)**に至らぬように、親が見守りながら小さな危険を経験させることも必要です。例えば低い階段から実際に転んでみるなど。転び方を子ども自身が学習しておけば大事故につながることはありません。

※(注1) 生命の危険やけがをして体や心に深いダメージを受けるような事柄。悪い結果が予測される危険な時、状況。

## ◆ 家庭の中の危機管理

- ・**ハイน์リッヒの法則(注2)**を参考に日常生活の中で「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたりしたことを見過ごさず、その都度原因を把握し、解決しておくことと小さな事故や大きな事故につながりにくいでしょう。日頃から大人の目で危険の種をなくすことが必要です。

※(注2) ハイน์リッヒの法則：ハイน์リッヒ氏が行った労働災害の聞き取り調査の数値データに基づく法則



※この数値データは1件の重大な災害の裏には29件の軽微な事故があり、そして300件の「ヒヤリ・ハット」(事故には至らなかったもののヒヤリとしたり、ハットした事例)があるという特徴を示しています。

- ・家の中に潜む危険を日頃からよく知っておきましょう。部屋の見取り図をつくり、子どもがよくけがをしたり、つまずいたりする場所にシール(●)を貼っておくと危険な場所が一目瞭然です。



## ◆ 子どもの生活の中に潜む様々な危険要因・・・家の外でも中でも危険なことはたくさんあります。

- ・歩行中: 転倒、衝突、つまづき
- ・車両: 乗車中、車両外
- ・自転車: 自損、接触(相手にけがをさせることもある)
- ・遊びの中: 幼稚園や保育園の中、家庭に帰ってから
- ・家庭の中: 生活用品(カッター、はさみ、ライター、薬、タバコ、ビニール袋など)

## ◆ 危険回避と対処方法・・・子ども自身が対処できるように教えておきましょう。(自分の身は自分で守る)

【けがの対処】 ※簡単なけがや病気への対処法はホームページにある【関連書類】を参照してください。

→鼻血の止め方など簡単な対処(手当)の仕方を教えておきましょう。親の体験などを交えて教えるよいでしょう。

【交通ルール】

→ルールは大人が教えましょう。その際、なぜそうしないといけないかということをよく説明しておきましょう。大人(親)が守れば子どもも守ります。

【家からの外出時】

→親は子どもが外出する時、最低限、どこに行くのか、どのルートで行くのかを聞いて把握しておきましょう。

【不審者に遭遇した場合】

→不審者かどうかを見極めるために、常日頃からたくさんの人に子どもの方から挨拶をさせるようにしましょう。不審者であれば返事をしない、あるいは逃げるといった行為が見られることが多いからです。

【災害保険への加入】

→保険会社によって対象となる災害が異なるので、加入する前によく内容を把握しておきましょう。

## 【けがや病気への対応について】・・・詳しい内容はホームページにある【関連書類】を開いてご覧ください。

### ◆ けがへの対応

- 1) おもな傷の手当
- 2) 鼻血の手当て
- 3) 虫さされ、動物にかまれた場合の手当て
- 4) 異物が入ったときの手当て
- 5) 口の中のけがの手当て
- 6) 打撲したときの手当て
- 7) 骨折時の手当て
- 8) やけどの手当て
- 9) 熱中症の手当て
- 10) 水におぼれた場合の手当て

### ◆ 病気への対応

◎ 症状別(熱、咳、腹痛、嘔吐、下痢、けいれん)の手当てとポイント

## 【非常時の持ち出し品について】・・・詳しい内容はこのホームページにある【関連書類】を開いてご覧ください。

### ◆ 1次持ち出し品(避難時にすぐに持ち出すべき、必要最低限の備え)

### ◆ 2次持ち出し品(避難した後で少し余裕がでてから避難所や自宅で生活を送る上で必要なもの)

## 【幸坂先生からのメッセージ】



### ◆ 自分の身は自分で守る！これが基本です！

- ・これを子どもに教えるにはまず、大人が手本をみせ、やってみせることが大事です。そして親や周囲の大人が子どもに教えたことは何でもやらせてみましょう！子どもはみんな天才です。何でもできます。できないと思うのは親の方の考えです。人任せにしない子、自分でなんでもできる子に育てましょう。子どもの可能性の芽をつまないようにしましょう！！

### ◆ 全てにおいて大人(親)が子どもの模範になりましょう！

- ・口で言うのではなく、まず親が手本を見せ、そして子どもと一緒にやりましょう！！



受講生の皆様から  
いただいた貴重な  
ご意見の一部です！



Thank you

- ♥ 親がしっかり見本を示さないといけないと、日頃の生活に喝を入れられた感じです。しつけの大切さを改めて認識しました。
- ♥ とてもためになる、楽しいお話でした。何をするにも親（大人）がお手本になる！子どもたちに恥ずかしくない生活を心がけようと改めて思いました。また、たくさんの経験を親子でして、子どもをたくさん誉めてやりたいと思います。
- ♥ 毎日、子どもが安心して過ごせるように「会話」を大切にしていきたいと思いました。
- ♥ 先生のお話はいつ聞かせていただいてもとても勉強になります。すぐに実践でき、役に立つので何回聞いてもとても感動いたします。
- ♥ 改めて親として子どもを守っていくことを考える良い機会になりました。いつも後回しになっていますが、帰ってすぐに「防災グッズ」をそろえようと思いました。しつけにおいても今までは子どもより先に手を出すことが多かったのも、これからはもう少し子どもたちの自立を見守り、ポイント、ポイントで口を出していく子育てを意識してやってみようと思いました。
- ♥ 先生ご自身の経験を交えたお話でとても参考になりました。「挨拶」、「家訓」などを実行してみたいと思います。また、家庭内に危険な箇所（場所）がないか、今一度確認してみたいと思います。
- ♥ とても分かりやすく、「防災」や「子育て」についての話を聞くことができ、大変勉強になりました。1時間30分という短い時間だったので、ぜひまた先生の講義を受けたいと思いました。
- ♥ 子どものしつけのためには、まず日常の自分（親）の生活を改めないといけないな、と思いました。
- ♥ 子ども一人一人の個性を活かしながら育てていくことに難しさを感じている毎日です。今日のお話を聞いて『挨拶』を子どもにしっかりさせていきたいと思いました。
- ♥ お話がとてもおもしろく興味深いものだったので、時間が経つのが早かったです。自分の中で反省すべき点も見つかり、今後の生活に活かせたらと思います。
- ♥ 児童をあずかる仕事をしておりますので、今日の講義はとても勉強になりました。また、地域での「声かけ」も大切なのだな、と感じております。